①-1　頂部のデザインを見直し、全体構成としての三層構成の表現を深め、建物全体が歴史ある街並みとより調和する提案

大同生命肥後橋ビルを起点とした、これまでの大同生命ビル

頂部デザインの系譜

ヴォーリズを起点とする、これまでの大同生命ビルデザインの潮流とも合致

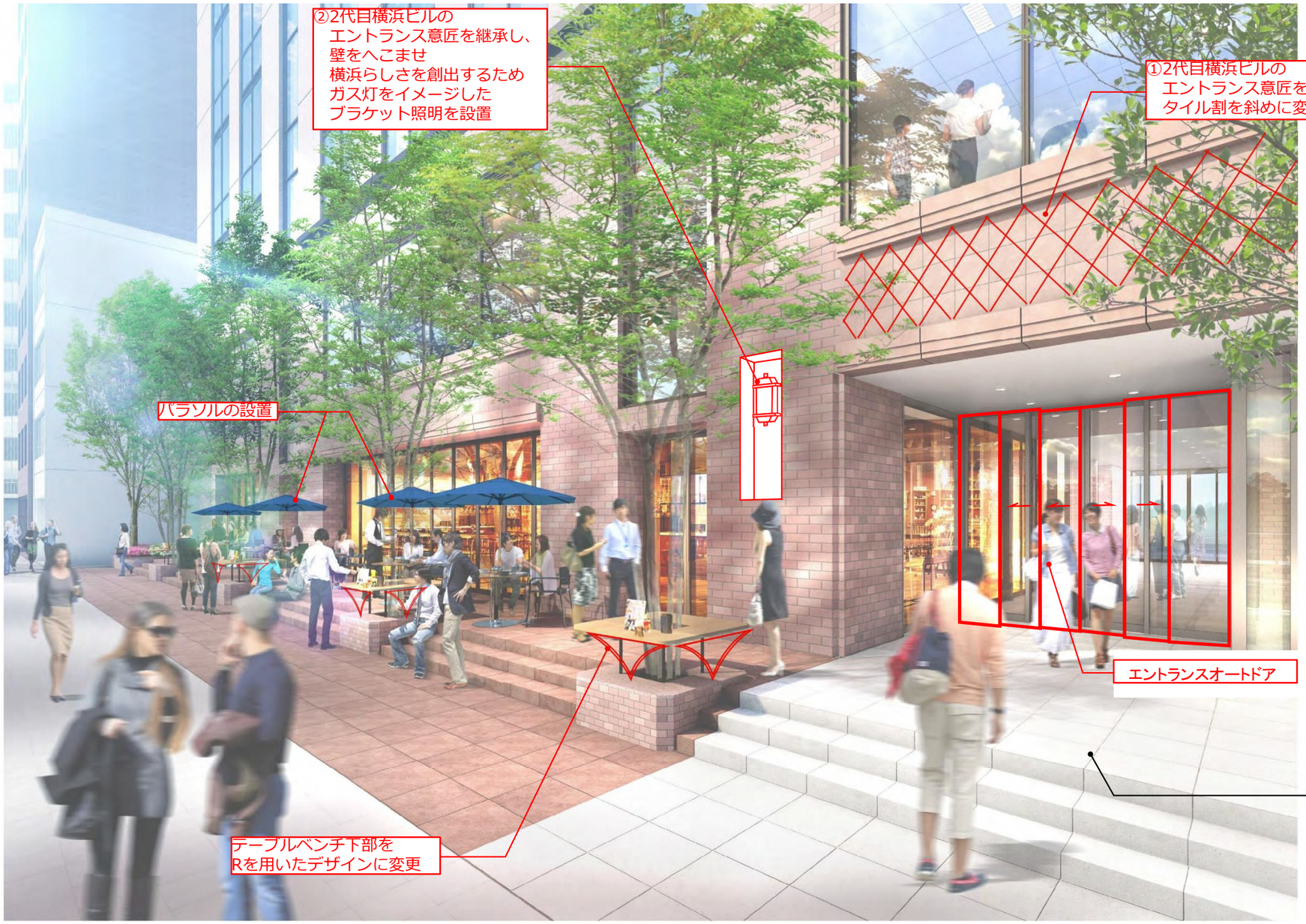
①-2　三層構成のうち、目線に近い基壇部のデザインを見直し、横浜らしさ、ヴォーリズらしさの表現を深める

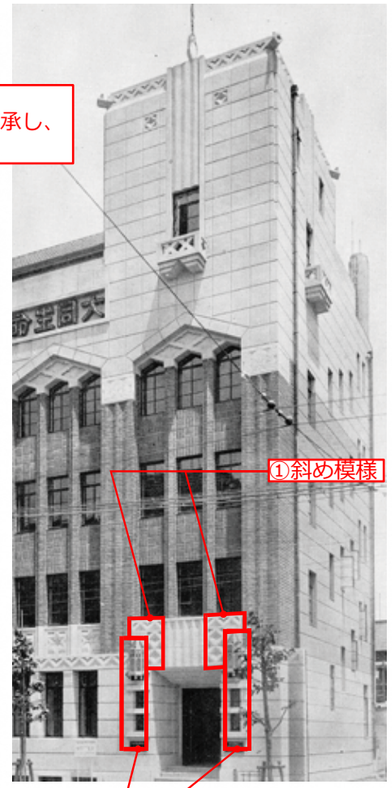
②公開空地の居心地のよさ＋③貫通通路の入りやすさ

※制約条件：青空公開空地確保と壁面後退距離等の法規制により常設の庇やシェード設置は困難。

＜見直し点＞

- **エントランス廻りに意匠を加え、入りやすい雰囲気を創出。クロス模様のタイル貼、エントランス脇の柱の掘込み、ブラケット照明などのデザインモチーフはヴォーリズ設計の2代目横浜ビルから引用。床材はオフィス然としない商業施設的な賑やかな印象のデザインに見直し。**
- **常緑樹を活かし、常緑の下にアールを用いてデザインしたベンチを新設。木陰となる居心地の良い場所を創出。店舗前はパラソルにて対応。**





1932 年 大同生命横浜ビル

エントランス床イメージ